

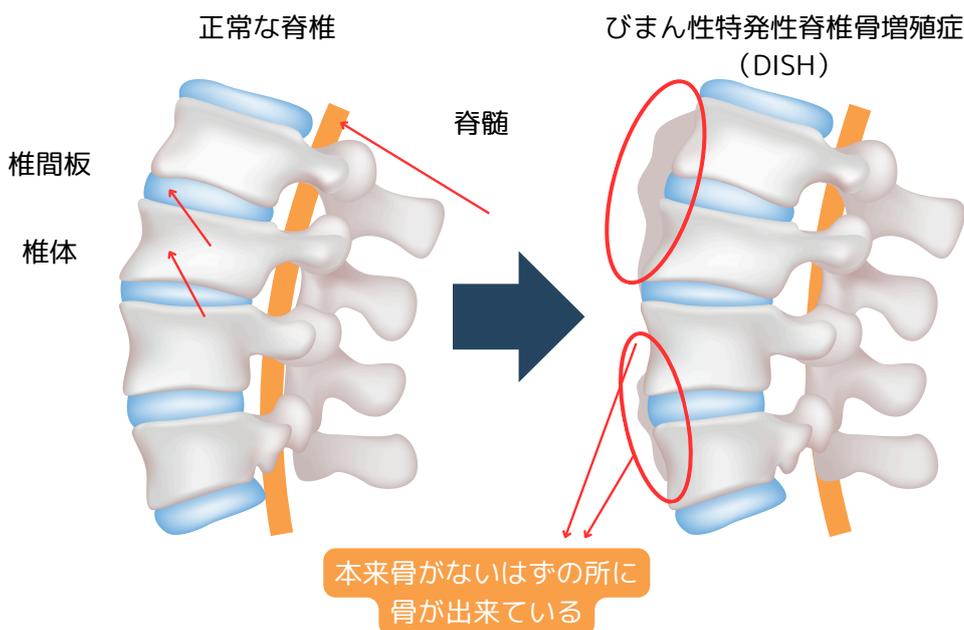


Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis

びまん性特発性脊椎骨増殖症(DISH)

原因

年齢が上がるにつれて発症するリスクが高まります。特に50歳以上の中高年層で多く見られます。肥満や糖尿病も原因になると考えられており、メタボリックシンドロームと関連があることが報告されています。遺伝の影響も考えられますが、具体的な遺伝子が特定されているわけではありません。



症状

椎体が骨化で連続することにより脊椎の可動域が制限されます。背中や首の硬直感や痛みとして現れ、動きが制限されることがあります。脊椎以外にも、肘や膝などの大きな関節に影響が及ぶことがあります。



びまん性特発性脊椎骨増殖症（DISH）

診断

画像検査により以下が認められた時に診断されます。

- 少なくとも連続する4椎体以上の前面～側面の骨化がある。
- 椎間板変性疾患はほとんどなく、椎間腔が保たれている。
- 椎間関節、仙腸関節の変性に乏しい。

治療

DISHそのものは加齢性変化の一つと考えられているため、特別な治療薬や手術方法などはありません。

運動により症状が和らぐので、無理のない範囲での体幹や股関節のストレッチなど、運動療法を行います。

椎体が連続しているため、背骨の動きが悪くなり、応力が集中し転倒など軽微な外傷で重篤な骨折を引き起こすことがあります。DISHでの骨折は脊髄障害や偽関節を引き起こし重症化しやすく、転倒しないように注意することが非常に重要です。

じっとしている時の痛みが強いようであれば痛み止めを内服します。基本的には非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）を使用し、慢性的な痛みであれば弱オピオイドやデュロキセチンを内服します。

